

私は、ボートピアに関する5つの請願書に賛成の立場で討論いたします。

請願書というものを出すのも生まれて初めての女性たちが中心となって、私たちの町を守りたい、子どもたちの育つ環境を守りたい、その想いで、ボートピア誘致に反対する運動を続けてきました。金森俊朗先生に来ていただいて講演会を開いたり、香川県の三木町からは5年かけて、ボートピア誘致をストップさせたという女性を招いて学習会を開いたり、署名を集め、12月、3月にも請願書を出し、とうとう選挙にまで出て、議会にまで参りました。皆さまからご覧になれば、議会のこと、政治のこと、何も知らない者たちがと、あきれていらっしゃるかもしれません。安心して暮らしたい、そんな住民のごく当たり前の願いが、なぜ、町に届かないのか、議会に届かないのか、私たちにはそれが不思議で、その不透明さが、残念でならなかったのです。

ひとくちに署名を集めるといっても簡単ではありません。新聞で町長のボートピア容認が大きく発表されてから始めた署名です。街頭署名も勿論やりました。全く見知らぬ方の家を訪ね、チャイムをならし、名前を名乗って、ボートピアについて説明し、署名をお願いして回るということはなみたいていのことではありませんでした。ほとんどの町民が、ボートピアがなんであるか、どこにできるのか、いつ議会が賛成したのかも知りませんでした。住民が町のことに対し関心を持たなかったことも一因でしょうが、住民への正しい情報が発信されていなかったからです。

10月23日の、713人の連名で出した住民の勇気ある「要望」に対し、しかも反対の声がこれだけあることを初めて知ったという状況で、なぜ、たった一日で突然町長の「容認」発表となったのか、これまで何度もお尋ねしましたが、一度も明確な答えはありませんでした。町長という立場で町民の声に耳を傾けるという姿勢が僅かでもあれば、たとえ、ポーズであったとしても、せめて12月議会ぐらいまで検討するという姿勢は、常識ではないかと思われまます。全員協議会での突然の発表に、驚いたという議員さんも事実、何人もいらっしゃると聞いています。この真相が明らかにされないまま強引にことを進めるやり方に、町長への不信の念が大きくなるばかりです。

私の一般質問に対しても、町長は舟橋区の総会の方法や内容まで関与すべき立場ではないので、調査する予定はないとの答弁でした。地区の決め方が住民の総意でない恐れがあっても、町は関与しない、地区の役員が暴走しても、町は関与しない、、、のでしょうか。今日、行政と地方議会に求められているものは、住民参加を活用することです。住民の声に耳を傾け、住民の意見をリアルに届けることが大切ではないでしょうか、

ボートピア問題は大きな問題として、津幡だけでなく、他の町からも注目を集めています。しかも、ボートピアができることによって環境整備費として町にお金が入ってくるというしくみなのに、町がなんら関与しない、もらうものさえもらえばいい、というのは無責任な話ではないでしょうか。

先日、砺波市の議会の職員の方が、津幡のボートピア反対について知りたいと訪ねてこられました。砺波市では市長だけではなく、全議員がボートピア反対なのだそうです。津幡ではそんなに反対の声があるのになぜ賛成するのか、不思議ですと言っていらっしやいました。地元とされる3つの地区のうちの一地区の60パーセントの人たちが賛成、ほとんどの人たちが反対なのはどうしてわざわざ津幡まで聞きにこられたかという、そのわずかに一地区の少しの賛成の人たちにわかってもらうために、なぜ反対するのかを調べていらっしやるのだそうです。少しの住民に対しても、誠実に対応しています。私たちはその話をお聞きしながら、羨ましくてなりません。

町長は、住民投票についても、「町民の嗜好に大きく左右される施設で、住民投票が適切な方法とは思っていない」との答弁でした。この論理はおかしいとは思われませんか。

左右されるのであれば、なおさら住民の意思を堂々と問うべきではないでしょうか。

「町の存亡に関わる大きな問題ではない、前例がないので、住民投票になじまない」とも言われました。そうでしょうか。私たちは、ボートピアができることによって、さまざまな影響が生じることが想像できます。たしかに、人それぞれ、考え方、生き方もいろいろあると思います。しかし、ボートピアというギャンブル場が老人のぼけ防止であるとか、夢と感動を与える施設だという考え、津幡町民はどう受け止めるでしょうか。

町長の言葉によれば、投資のいらぬ「企業誘致」である、「優良企業」である。本当にそうでしょうか。「巧妙な儲け話には必ず裏がある」、「ただほど怖いものはない」という言葉は真実だろうと思います。ギャンブル目的の、不特定多数の人たちが津幡町を訪れるとされ、業者は24億円の売上げを見込んでいますが、津幡町民はそのうちどれぐらい負担するのでしょうか。1割としても、2億4000万円、これだけの大金を津幡町民がギャンブルにつきこまないと、2400万円という環境整備費が入ってこないのです。これは原発、産廃など人が迷惑をこうむる代償費ですが、、、この2400万円が町にはいらぬのです。

視察された方のお話では、視察先のボートピアでは、おじいちゃんがほとんどだったとのことでした。津幡倉見のウエルピアではなく、ボートピアへ行くお年寄りが増え、年金をつぎ込むことになりすね。

昨日の朝日新聞に「わいろで馬券買う」こんな大きな見出しで記事が出ていました。生駒

市の前市長はもらったわいろ1000万円を「競馬の馬券を買うため大半を使い切ってしまった」と供述しているそうです。ひそかに、競馬にのめりこみ、とうとうわいろまでもらっていたということです。白山市職員の例があったように、ギャンブル依存症という言葉があるくらい、ギャンブルには危険な、怖い面があります。はまる人が悪いのだ、自己責任だと傍観していていいのでしょうか。身近な人たち、おじいちゃんや、おばあちゃん、父親、母親、、だれが原因で家庭が崩壊するか、誰にもわかりません。ただでさえ、家庭生活を脅かす不安の種は、津幡町には要らないと本当に思います。先進地といわれている南部町では、今年のボートピア予算はたった700万です。

何が本当に大事なのか、私たちおとなに今、選択が求められています。子どもたちは、おとなの社会を見ている、おとなの姿を見ている。子どもたちに、残していくものは何なのか、私たちに問われています。お金、ですか。このままでは、活性化の名のもと、人間の欲で、3000坪以上の自然が破壊され、決して希望を産み出すことのない営利目的のギャンブル場ができてしまいます。

子どもたちの目と心に焼きつくふるさとの光景が、ボートピアの記憶であってはあまりに悲しすぎます。津幡町の豊かな自然の中で、子どもたちが生命や自然の不思議を感じ、健やかに育つことを心から願い、お金よりも大事なことがあるということ、(河合谷小学校という教育の原点ともいえる財産、、) 私たちおとなが子どもたちの環境を守らなくてはならないことを切に訴え、私の討論と致します。